

小学校国語科における論理的文章教材の研究

A Study of the Logical Sentences Materials in Elementary School Japanese Classrooms

小 川 智勢子
(Chiseko OGAWA)

1. 論理的文章を「読むこと」の学習指導の課題

小学校学習指導要領解説（国語編）では、「読むこと」の指導事項を「文学的な文章」と「説明的な文章」に分けて解説するようになった。また、「読むこと」が「思考力・判断力・表現力等」の内容として位置づけられた。論理的文章を「読むこと」の目標が、理解だけに留まらないことがより明確になったといえる。

しかし、国語教科書の教材を見ると、小学3年までの論理的文章教材は、児童が読んですぐに理解できる教材が多いが、小学4年以降では、一読しただけでは理解できないような難しい文章が採り上げられている。教科書に採り上げられている論理的文章教材を、理解するだけでなく表現するための教材として捉え、学習指導を組み立てていく必要がある。

2. 研究の目的及び研究の方法

本研究では、より内容が難しくなっている小学5、6年の国語教科書の論理的文章教材を「書く」ために「読む」という視点で考察する。また、論理的文章教材を「書く」ために「読む」という視点で授業実践を検討していく。

研究の方法として次の2点を設定している。

- (1) 小学5、6年の国語教科書の論理的文章教材を一定の視点によって評価する。
- (2) 論理的文章を「読むこと」の授業実践を検討する。

3. 論理的文章教材研究の視点

(1) 文章構成

論理的文章を読んだり書いたりするとき、論理的文章の構成原理を理解していれば、文章の全体を捉えることができ、小学生が自分で読んだり書いたりするとき有効な手立てとなる。論理的文章の構成原理を科学論文の書き方から考察する。

科学論文の書き方について述べた書籍の中で、田中潔（1994）は、論文の構成要素を十点挙げ、「研究結果」と「結論」の間に「考察」と「総括」を置いている⁽¹⁾。田中は、「総括」は論文全編

の要約であり、「考察（discussion）は研究結果の意義を述べ、先人の類似研究があればそれと比較して異同を明らかにし、最終的には結論に導くための議論を展開する場所である。」と説明している⁽²⁾。

小学校の国語科教科書の論理的文章は、説明・報告・論説が載せられている。説明・報告は、具体的事例と考察が記述され、論説は具体的事例と考察に筆者の主張が記述された文章である。「始め・中・終わり」という文章の位置を示す言葉だけでは、論理的文章の構成原理を捉えることはできない。「序論・本論・結論」の本論の部分の具体的事例とそこから導き出される考察、そして結論で述べられる筆者の主張を分けて捉え、論理的文章教材の構成を分析する。

(2) 段落

小学校では3年から段落の役割を指導することになっている。しかし、段落について研究者の間で様々な議論があり、研究者によって段落の捉え方が一様ではない⁽³⁾。日本では、論理的文章にも文学的文章にも「段落」という言葉が使用されてきたために、段落のまとまりをどのようにつくればよいかが不明確となった。そのため、筆者が恣意的につくった形式段落を読み手が筆者の意図を汲み取って意味段落に分けるという指導がされるようになった⁽⁴⁾。

論理的文章の段落の指導を文学的文章の改行とは分けて考え、指導事項を明確にする必要がある。段落を組み立てて論理的文章を書くことと、論理的文章を読むことをつなげて指導するためには、一つの段落で一つの事柄を述べるという段落の原則を指導することが大切であると考えられる。

一つの段落に一つの事柄が書かれているとき、その段落に書かれている内容を一言で表す言葉を「キーワード」として指導してきた。段落の内容を一言で表す「キーワード」を各段落から取り出すことで文章全体を把握することができる。

(3) 具体的事例

論理的文章では、記述されている具体的事例が、筆者の主張や考察で述べていることの根拠となる事例となっているときに説得力がある文章となる。具体的事例の分かりやすさや面白さが論理的文章の大切な点である。論理的文章教材の具体的事例が、各学年の児童にとって分かりやすい事例となっているか、発達に応じて理解できる事例になっているかをみていく。

(4) 文章の長さ

見出しがなく、文章が何頁にもわたって続くと、大人でも読んでいて何を言いたい文章なのか分からなくなる。小学生の児童では、文章が4頁を超えると、その具体的事例がなんのために書かれていたのか、具体的事例と具体的事例の関係はどのようになっているのかなど、文章全体を捉えることが困難になる。見開き2頁で示されている論理的文章教材は、文章全体を見渡すことができ、小学生の児童にとって、大変分かりやすい教材である。

(5) 学習の手引き

国語科教科書では、論理的文章教材の後に学習の手引きが示されている。学習の手引きに沿って課題に取り組んでいくことで学習目標を到達することができるように、以前よりも分かりやすく課題が提示されるようになってきている。論理的文章教材とともに、目標に沿った学習の手引きの分かりやすさも検討する。

以上、文章構成、段落、具体的事例、文章の長さ、学習の手引きの五つを教材分析の視点として設定する。

4. 論理的文章教材研究五つの視点の評価規準

小学5、6年の論理的文章教材を「書く」ために「読む」という視点で捉えて、五つの視点（文章構成、段落、具体的事例、文章の長さ、学習の手引き）で考察する。五つの視点それぞれの評価規準は次のとおりである。

(1) 文章構成

- ◎……具体的事例と考察、筆者の主張が捉えやすい構成となっている。
- ……一部捉えにくい点があるが、大体捉えることができる。
- △……構成が入り組んでいて捉えづらい。

(2) 段落

- ◎……一段落一事項になっていて、各段落のキーワードが明確である。
- ……一段落一事項になっていない段落が、一つから二つある。
- △……一段落一事項になっていない段落が、三つ以上ある。

(3) 具体的事例

- ◎……具体的事例が、発達段階に適していて分かりやすい
- ……具体的事例が少し難しい。
- △……具体的事例が難しい。

(4) 文章の長さ

- ◎……見開き2頁
- ……4から6頁
- △……7頁以上

(5) 学習の手引き

- ◎……学習のねらい、学習事項、発問・指示が明確である。

○……一部分かりにくい。

△……分かりにくい。

5. 小学5年の論理的文章教材

現在小学校で使用されている3社の国語教科書に掲載されている論理的文章教材を、前項で述べた五つの視点で評価した。太字が教材名で、評価の次に考察を述べた。考察の次に示した（ ）内の言葉は、教科書が示している教材のねらいである。

(1) 東京書籍

① 動物たちが教えてくれる海の中のくらし（6頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例○ 長さ○ 手引き◎

一段落一事項のきまりが守られていて、キーワードが取り出しやすい。（要旨を捉える）

② 新聞記事を読み比べよう（2頁）

評価…構成○ 段落○ 事例○ 長さ◎ 手引き○

二つの新聞記事の長さが丁度良く、意図の違いが分かりやすい。（書き手の意図を捉える）

③ 和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる—（7頁）

評価…構成△ 段落△ 事例△ 長さ△ 手引き△

情報が多く、構成が分かりづらい。（情報を整理し、資料を読み取る力をつける）

④ 「弱いロボット」だからできること（6頁）

評価…構成△ 段落△ 事例○ 長さ○ 手引き○

文章構成や段落が整理しにくい。（テクノロジーの進歩について多角的に捉える）

【考察】

- ① 要旨を捉えることが目標の論理的文章教材は、段落と文章構成が指導事項とされていて、明快な教材となっている。
- ② 情報を読み取ることや、多角的に捉えることが目標の論理的文章は、段落や文章構成が分かりにくい教材となっている。

(2) 教育出版

① 言葉と事実（6頁）

評価…構成△ 段落△ 事例△ 長さ○ 手引き○

各段落のキーワードが不明確で、主張が曖昧である。具体的事例が分かりにくい。

（事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考える）

② ブナの森が支える豊かな自然（3頁）

評価…構成○ 段落○ 事例○ 長さ○ 手引き○

白神山地についての情報が分かりやすくまとめられている。段落ごとのキーワードは比較的取

り出しやすい。一つの段落の中で具体的事例と考察の両方を述べている段落があり、段落と文章構成には課題がある。（白神山地について知る）

③ 白神山地の自然保護―「緩衝地域」の役割―（2頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例○ 長さ◎ 手引き◎

意見文を書くために提示された六つの資料の中の一つである。学習の手引きには考えと根拠の例示が六つあり、お手本となる意見文全文も示していて分かりやすい。（白神山地の課題を知る）

④ まんがの方法（10頁）

評価…構成◎ 段落○ 事例◎ 長さ△ 手引き◎

説明に合ったまんがの資料が提示されていて、分かりやすい。（「まんがの方法」とその効果について自分の考えをもつ）

【考察】

- ① 分かりやすい教材と分かりにくい教材がある。
- ② 「ブナの森が支える豊かな自然」と「白神山地の自然保護」は、同一単元の教材である。
- ③ 共通の資料を根拠に意見を書くという学習は、読むことと書くことをつなげたよい指導となる。

(3) 光村図書

① 見立てる（2頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例◎ 長さ◎ 手引◎

各段落のキーワードが明確で、文章構成が分かりやすい。（要旨）

② 言葉の意味が分かること（6頁）

評価…構成△ 段落△ 事例△ 長さ○ 手引○

各段落のキーワードが取り出しにくい。難解な文章となっている。（要旨）

③ 固有種が教えてくれること（8頁）

評価…構成○ 段落△ 事例△ 長さ△ 手引△

プレゼンテーションを意識した文体である。具体的事例は興味深い、非常に分かりづらい文章である。（資料を用いた文章の効果）

④ 想像力のスイッチを入れよう（6頁）

評価…構成△ 段落△ 事例◎ 長さ○ 手引◎

具体的事例と意見の関係が明確な教材である。不必要な改行があり、途中で意見の段落がある。（事例と意見の関係）

【考察】

- ① 「見立てる」以外の教材は内容が難解で文章構成も分かりにくい。

- ② 光村図書5年の教材は非常に指導が難しい教材となっている。

6. 小学6年の論理的文章教材

(1) 東京書籍

① イースター島にはなぜ森林がないのか（7頁）

評価…構成△ 段落△ 事例○ 長さ△ 手引○

文章構成が複雑で分かりづらい。改行が多く論理的文章の段落になっていない。（論の進め方）

② インターネットの投稿を読み比べよう

評価…構成◎ 段落◎ 事例◎ 長さ◎ 手引◎

350文字前後の教材を11例示している。学習の手引きに示された比較の観点が分かりやすい。
（説得の工夫）

③ 町の幸福論 ―コミュニティデザインを考える―（8頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例◎ 長さ△ 手引◎

文章は長いが、段落、文章構成が明確で分かりやすい。（情報活用とプレゼンテーション）

【考察】

- ① 指導の目標が明確で、目標に合った教材が用意されている。
- ② 「インターネットの投稿を読み比べよう」は、説得の工夫の観点を具体的に四つ示している。
「書くこと」に生かすことができる。

(2) 教育出版

① 薫風（4頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例◎ 長さ○ 手引き○

二つの具体的事例と筆者の考察という組み立てが分かりやすい。（筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しむ）

② 「迷う」（8頁）

評価…構成△ 段落△ 事例○ 長さ△ 手引き○

改行が多く、論理的文章の段落の指導がしづらい。（書き手の意図を捉える）

③ 雪は新しいエネルギー（10頁）

評価…構成○ 段落○ 事例○ 長さ△ 手引き○

各段落のキーワードを取り出し、意味段落に分けて文章構成を捉えると内容が分かる教材である。文章が長い。

（筆者の説明の仕方の特徴を捉える）

④ ぼくの世界、君の世界（8頁）

評価…構成△ 段落△ 事例○ 長さ△ 手引き△

改行が多く、論理的文章の段落になっていない。（「心の世界」について考え、自分の考えを伝え合う）

【考察】

- ① 新しいものの見方や考え方にふれて、視野を広げることをねらいとした教材のため、論理的文章の段落や文章構成は指導できない。
- ② 薫風は、筆者の体験をもとに考察が述べられていて具体的事例と判断の指導ができる教材である。

(3) 光村図書

① 笑うから楽しい（2頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例◎ 長さ◎ 手引◎

具体的事例が分かりやすい。筆者の意見が明快に述べられている。（主張と事例）

② 時計の時間と心の時間（6頁）

評価…構成○ 段落○ 事例◎ 長さ○ 手引◎

具体的事例と考察、筆者の主張が明快な教材である。（主張と事例）

③ 『鳥獣戯画』を読む（8頁）

評価…構成○ 段落○ 事例○ 長さ△ 手引○

日本文化に興味関心をもつことができる文章である。体言止めが多く、文学的文章の文体になっていて段落の指導はしづらい。（表現の工夫）

④ メディアと人間社会（3頁）

評価…構成◎ 段落◎ 事例◎ 長さ○ 手引○

全て意味段落で構成されており、キーワードが分かりやすい。（複数の筆者の考えを捉え、多面的に考える）

⑤ 大切な人とつながるために（3頁）

評価…構成○ 段落○ 事例◎ 長さ○ 手引○

一般的な事例でしか述べていない。（複数の筆者の考えを捉え、多面的に考える）

【考察】

- ① 筆者の主張とその根拠となる具体的事例を捉えることを意図した教材が示されている。
- ② 6年の児童のものの見方や考え方の視点を広げられ、比較的分かりやすい具体的事例が多い。
- ③ 課題として、文学的文章の文体で書かれている教材があることや、一段落一事項となっていない段落があることなどが挙げられる。

7. 授業実践 小学6年「時計の時間と心の時間」(光村図書)

(1) 教材の特徴

小学6年の論理的文章教材「時計の時間と心の時間」は、前項の教材研究で明らかになった教材のよさと課題の両方が表れている教材である。具体的事例と考察の関係が明快であるが、段落に課題がある。「時計の時間と心の時間」の教材の特徴を次に示す。

- ① 「心の時間」の二つの特性について、四つの具体的事例を挙げて説明している。
- ② 一つ目の特性については、三つの具体的事例を挙げて説明している。
- ③ 各段落のキーワードを抽出しやすく、筆者の主張と考察、具体的事例がよく結びついている教材である。
- ④ 「はじめ」(序論)の段落(2段落)に「まとめ」(具体的事例の考察)が書かれている。6年の児童が読み進めていく上で理解しやすくしているためと思われるが、一段落一事項の段落の指導には適していない。
- ⑤ 学習の手引きの中で文章構成を確認し、筆者の主張と具体的事例の関連について考えさせる課題があり、分かりやすい。

(2) 文章構成

段落	文章構成	キーワード
①②	はじめ	「心の時間」
③	なか1-(1)	どう感じているか
④	なか1-(2)	一日の時間帯
⑤	なか1-(3)	身の回りの環境
⑥	なか2	人によって感覚が異なる(特性2)
⑦	まとめ	ずれが生まれる
⑧	むすび	「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使う

進み方が変わる(特性1)

(3) 学習目標

- ① 文章構成を理解している。
- ② 具体的事例の段落と、考察の段落の役割に気づいている。
- ③ 段落からキーワードを取り出している。

(4) 学習計画(3時間扱い)

第1時 ① 全文を一斉音読する。

- ② 「なか」(具体的事例)と「まとめ」(考察)、「むすび」(主張)がどの段落で述べられているのか、大まかな文章構成を確認する。

第2時 ③ 段落ごとのキーワードを話し合い、段落の役割を理解する。

④ キーワードを文章構成表に整理する。

第3時 ⑤ 具体的事例の内容と筆者の主張を関連づけて考える。

(5) 主な発問・指示・説明

段落の役割を指導する第2時について、発問・指示・説明と児童の感想を次に示す。

第2時

〔説明〕今日は段落からキーワードを探して、文章構成を整理します。（本時の学習内容の提示）

〔指示〕全文を声をそろえて読みましょう。「時計の時間と……」ハイ（一斉音読）（4分17秒）。声をそろえて上手に読みました（一斉音読の後は必ず褒める）。

〔発問〕（第1、2段落を一斉音読後）筆者は、「時計の時間」と「心の時間」では、どちらに目を向けることが大切だと言っていますか。解答「心の時間」

〔発問〕（一斉音読後）3段落では「心の時間」の進み方が何によって変わると述べていますか。教科書に線を引きましょう（キーワードの抽出）。解答「その人がそのときに行っていることをどう感じているか」

〔発問〕（一斉音読後）4段落のキーワードを探して、線を引きましょう（キーワードの抽出）。解答「一日の時間帯」

〔発問〕（一斉音読後）5段落のキーワードを探して、線を引きましょう（キーワードの抽出）。解答「身の回りの環境」

〔説明〕3、4、5段落では、「どう感じているか」「一日の時間帯」「身の回りの環境」によって「心の時間」の進み方が変わるという特性について書いてありました（具体的事例の整理）。

〔発問〕（一斉音読後）6段落で述べている「心の時間」の特性は何でしょう。探して線を引きましょう（キーワードの抽出）。解答「人によって感覚が異なる」

〔発問〕（一斉音読後）7段落では、「心の時間」の特性をまとめています。「時計の時間」と「心の時間」には、必ず何が生まれると書いてありますか（キーワードの抽出）。解答「ずれ」

〔発問〕（一斉音読後）8段落には筆者の主張が書いてあります。「時間」と付き合う知恵とは、どんな知恵なのか、8段落から探して線を引きましょう。解答「『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使う」

〔説明〕（ノートの記入と、全文一斉音読後）今日はキーワードを探して、文章構成を整理しました（学習の意義）。

〔説明〕次の時間は「心の時間」の特性について、自分の経験と照らし合わせながら考えます（次時の予告）。

第2時児童の感想

児童がノートに書いた感想では、内容に関する感想と、キーワードを探す学習に関する感想が

あった。主な感想を次に示す。

- ① 「心の時間」と「時計の時間」の区別の仕方が分かった。
- ② 「心の時間」も「時計の時間」も両方必要だということを知った。
- ③ 「心の時間」と「時計の時間」両立させることが大事だと思った。
- ④ 「心の時間」を大切に、つねに頭に入れて生活したい。
- ⑤ 「時計の時間」と「心の時間」にずれが生まれることが分かった。
- ⑥ 私も「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うというちえを身につけたい。
- ⑦ 今日は、段落のキーワードを見つけるのが難しかった。
- ⑧ キーワードを見つけるのが楽しかった。
- ⑨ 「早く終わってほしい」と感じている時に時間が遅く感じていたのは「心の時間」というものがあるからだを知った。
- ⑩ 段落のキーワードを見つけて文章構成を考えることができた。

(6) 実践の考察

- ① 具体的事例と考察、筆者の主張がどこに書かれているのか、キーワードを抽出して文章構成を整理する学習を実践した。
- ② 意味段落のキーワードを見つけて、段落の役割を確認することで文章全体のあらましをつかむことができたことが感想から分かる。
- ③ 「読むこと」で学んだ学習事項を「書くこと」に生かす具体的な実践について検証が必要である。

8. まとめ

段落のキーワードを抽出し文章構成を確認する学習によって、具体的事例と判断の関係を指導することができると考えている。

具体的事例と判断の関係を指導することが「書くこと」の指導にどのようにつながっていくのか実践の検証をすることが課題である。

「注」

- 1、田中潔（1994）『手ぎわよい科学論文の仕上げ方 第2版』共立出版、21.
- 2、前掲同書、29-31.
- 3、安部朋世（2015）「166 段落」『国語科重要用語事典』高木まさき、寺井正憲、中村敦雄、山元隆春編著、明治図書、180.
- 4、倉澤栄吉（1961）「形式段落と意味段落（一）」『教育科学国語教育35』明治図書、2-3.